

各地区情勢報告（2019年1月21日）

地区報告者	報告概要
東京地区（山岸常任理事）	<p>（鉄筋・店売り）昨年11月が需要のピークだった。12月は秋需の余韻もあり落込みはなく前年対比では良かった。年末年始の休みでトーンダウンしたが、現状1月の荷動きはまあまあである。加工の仕事が入ってきている。</p> <p>（鉄筋・直送）店売り同様、昨年11月がピークだった。現状はピーク時の10%減位になっている。小口物件が多い。土木建築で使用されるSD345とSD390は本年1月より1千円ずつ値上げを実行した。電炉メーカーもコストアップが高止まりしており市況も現状横這いである。昨年、地方のある鉄筋加工会社が2社経営破綻した。過剰な設備投資と競争でキャッシュフローが苦しくなっている。</p> <p>（一般形鋼）売上数量は前年同月比横這い、売上金額は価格が上っているので増加している。10、11月と比べ、12月は日数減もあり販売が落ちている。市中玉出回り状況は不足ぎみ傾向である。12月メーカーの入荷が悪かったが、1月の需要はそこそこある。3次店向けの補充材が若干増えている。一次加工は一杯の状況で短納期の加工は対応できない状況である。溝形鋼の入荷が悪く、歯抜けが目立っている。納期のズレがあり、工期が遅れている。メーカーの設備トラブルでデリバリーが悪くなっている。運送問題はメーカーも直ぐに解決はできない。不需要期だが、加工中心に動きは悪くないので積み残し分の価格転嫁を早急に行きたい。</p> <p>（H形鋼）1月の荷動きは若干減少傾向。加工が忙しく、加工先を探すのが至難の業である。大手ファブは山積みが高く外注先を探すのが困難な状況。図面遅れ、人手不足、ボルト不足、輸送問題が課題となっている。メーカーは相変わらず強気姿勢。スクラップが下落し3万円を切っているという心配はあるが、今後、著名案件が出てくるのでゼネコンの弱気な面は感じられない。コストアップで高止まりしているためメーカー姿勢は強気である。12月契約で値上げしたメーカーがあり、現状、価格転嫁が急務となっている。</p> <p>（コラム）タイトで強含みである。ほとんど物が無い状況。あつたら直ぐ売れてしまう。4～6ヶ月待ちの状況。メーカーの供給が追いつかず当面タイトな状況が続くと思われる。</p> <p>（C形鋼）加工品は中小物件を中心に増えている。メーカーからの出荷も遅れており、タイト感が出始めている。安値も払拭しているので、採算重視の販売を行っている。</p> <p>（薄板概況）12月の売上数量は前月比11%減であった。稼働日数が2日減で価格転嫁を強引に行ったためである。薄板3品在庫も11月末で413万6千トン。12万4千トン減だが、業種によっては全くタイト感がない。建築、首都圏の再開発、ショッピングモール、設備投資、物流倉庫、病院、マンションなどの需要が多い。災害があったため卓上コンロが好調。</p>

UFOキャッチャーのゲーム機は忙しい。風力発電、エネルギー関係、空調ダクトが忙しい。エレベーターも生産が多い。メーカーは設備トラブル、生産計画ミス等もあり、ヒモ付きでさえもロールが遅れている。尚且つ更なる値上げも実施しており、コイルセンターとしては価格転嫁を急がなければならない。店売り販売がヒモ付き化している。直一層、店売り販売の分野が縮小していくように思われる。

(薄板概況2) 問屋在庫、コイルセンター在庫とも前年比増で現状タイト感はない。建築向けは堅調だが、12月、1月と店売り販売に変化なし。定尺は輸入材のシェアが多くなってきている。特に中国ミルの冷延薄板が出始めており、昨年秋口以降、国内品から輸入材へシフトしている形鋼が見られる。ポスコ、CSCは堅調で高止まりしているため中国ミルへの申込みが増えている。

厚板部会(厚板概況) 斑模様である。建産機は概ね堅調だが、一部動きが止まったメーカーもある。土木は安定。耳付き母材販売は大幅減。敷板は低調で価格が下がっている。12月は稼働日減の影響が大きいが大幅に減少した。流通の店売り分は大幅にロールが遅れ、申込みカットになっている。特に建築向けの厚板に関しては堅調であり、徐々に価格転嫁が進んでいる。地方の二次店、三次店も当用買い中心の商いである。今後、物件の話は多く出ているが、なんとも言えない状況である。メーカー状況を見ると今後タイト感が出てくると思われる。流通を無視したメーカーの態度が気になる場所である。今後控えている物件の話は多いが、加工能力不足、人手不足、トラック不足など日を追うごとに深刻化している。メーカーの設備トラブルが多く、その影響を被っているのは我々流通である。今年の仕事量は昨年並みを期待しているが、不安要素もあり、GWの10日連続休暇が気になる場所である。

(中板コイル) 今年、営業が始まり1週間経ったが、状況は昨年と変わらない。日割りでは前月比99%と稼働率は変わっていない。前年同月比は107%であった。需要動向はトラック関係が出ている。建機関係も変化なし。高炉メーカーのトラブルで材料手当が困難である。供給責任は守ってほしい。好調さを維持できなくなってしまう。高炉トラブルの影響で厚板にタイト感が出ている。更なる値上げを実行しているメーカーもあり、これから再値上げをユーザーに説明し説得していかなければならない。(厚板定尺) 昨年7月～9月、10月までは厚板定尺は堅調であった。しかし、11月以降、その反動なのか荷動きは減少傾向。12月の出荷量は7～9月の平均と比べると2割減少、前年同月比でも15%減少した。在庫はメーカーの設備トラブルもあり、月を追って入荷状況が悪くなっている。昨年秋頃は在庫に歯抜けがかなりあった。現状、荷動きが多少減少しているとはいえ、メーカーの入荷遅れの影響で歯抜けサイズが散見されている。この先もこの状況が暫く続くとのことなので、積み残し分の価格転嫁をしていきたい。(縞板) 12月の売上数量は前月比18%減であっ

た。定尺素材販売は15%減。切板は25%減と非常に減少幅が大きかった。直接販売は堅調、店売り販売は低調である。店売り向けはレーザー加工で小ロット短納期の仕事が多い。システム建築、マンション向けパレットは堅調。ショッピングモール、物流倉庫、再開発案件は続いている。建築の一部物件で工期遅れが発生している。ファブやゼネコンに承認された物件が設計変更されたりしている。在庫は前月比減少している。当社の仕入メーカーでは設備トラブルを起こしていないが、自動車向け優先の入荷になっているためロールが遅れている。

(鋼管概況) 鋼管杭の需要は相変わらず多い。年が明け全般的に一服感が出ている。トラックは高位横ばいでこれ以上増えることはない。自動車は減産で現状レベルの3分2位になると予測される。建産機は強気である。プラント関係の仕事はあるように聞いている。需要は秋口まで堅調だと思うが、4月以降の内需が明確になっていないためユーザーは心配している。仕入価格は高レベルである。高炉ガス管は更なる値上げも予測される。某高炉メーカーの事故により様々な品種が申込み数量をカットされている。在庫はほぼ横ばいで推移している。供給側の都合で今後、逼迫感が出てくる可能性がある。(高炉品) 荷動きは先月と日割りでは変わらない。在庫は品種サイズにより歯抜けが出ているが、需要が出ているというよりはメーカーの供給要因である。メーカーの納期遅れが解消されず、入荷される場合はダンゴ出荷になっている。流通在庫は月ごとにアンバランスな状況で変化している。価格は自社在庫を大切に売る姿勢からメーカー値上げ分を完全転嫁する動きが見られ下値が切り上がっている。平均単価は上昇している。先行きは昨年よりは多少良い状況で続いていくのではないかと。メーカーの供給不安があるので、今ある在庫を大事に販売していきたい。(溶協品) 12月の店売りは稼働日数が少なかった分、売上が減少した。日割りにすると悪い数字ではない。1月の出足は良いと聞く。メーカーのロールがタイトで歯抜けが出ている。アンケート結果ではガス管のみタイトのように感じられるが、中径角にも歯抜けが随分でている。ガス管も250A以上のサイズが品薄になっている。300A、350A、400Aが入ってこない。やっと大阪から入ってくるという話があると売り切れてしまう。サイズのタイト感は広がるのではないかと。ユーザー関係ではスバル自動車の減産の影響が出ている。現状、建築土木、建産機は堅調だが、来年度以降は不透明である。建築関係も都内物件はピークで現場に向けての出荷が多い。Mグレード以下のファブは2月、3月は手空きになるような話を聞く。ボルトなどの不足によるものと思われる。加工は絶好調である。年明けの新規の受注は少し落ち込んでいるが、12月受注分が多くあり、まだまだ需要は続いている。コイルの入りが増えているので、今後タイト感が出てくるのではないかと。採算重視の商いをしていかなければならない。

<p>大阪地区(森下常任理事)</p>	<p>(棒鋼) 市況は異形棒鋼が直送、現物とも前月比横這い。丸鋼・構造用丸鋼、角鋼、平鋼も横這い。異形棒鋼は昨年11月頃からスクラップ市況の下落が続いているもののメーカーの売り腰は強く、需要家は様子見に徹している。総じて膠着(こうちやく)状態。平鋼、角鋼は製造業向けが好調。メーカーはひも付きの出荷を優先するため、店売りの入荷は思わしくない。構造用丸鋼は自動車が生産好調、建機は受注残の生産が好調。そのような状況は2月以降も続く見通し。(形鋼) 市況は等山、不等山、溝形、I形、H形がいずれも前月比横這い。軽量製品ではコラム、軽量C、軽量H、デッキがそれぞれ横這い。12月は稼働日数が少ないことからH形鋼も一般形鋼も付き全体では前月比減少となったが、日当りは横這い基調で建築の堅調さが伺える。1月も基本的にこの動きを引き継いでいる形である。スクラップ市況が下落する一方で副資材などのコストアップ要因があってメーカーの売り腰は強いままの状態。おかげで市況がキープできている部分もあるが、「需要は2月以降も堅調に推移するだろう。そんななか、引き続き採算改善に努めることが必要である。(薄板) 市況は表面処理、冷延とも前月比横這い。自動車は生産好調。家電は冷蔵庫、洗濯機、エアコンなど比較的生産好調。電気機器は配電盤が好調。鋼製家具は例年並みの動きで推移してきたが、今後は首都圏を中心にオフィス家具需要が伸びる見通し。住宅、非住宅はいずれも11月若干減少。建機は生産好調。工作機械は生産が多少一服している。需要は全体的に少なくとも年度内は堅調に推移し、需給タイトの状態も続く見通しである。(厚板) 厚板、中板の市況は横這いである。中板の相場を下げたのは、あくまで数ヶ月放置していたため修正したもので実勢は横這いで推移している。縞板は横這い。店売りは堅調に推移。需要動向は全体的に堅調に推移。需要動向は全体的に堅調である。スプラインプレートの納期が延びているが建築は好調。産機関連はいまひとつといった状態である。切板価格はシャー、溶断とも安値が切り上がってきている。</p> <p>(鋼管) 市況は配管用、構造用がそれぞれ前月比横這い。角形鋼管は横這い。建機は国内向け、海外向けともに生産好調。ディスプレイは閑散期に入っている。例年よりか良い調子である。そんな中、店売りの販売用は横這いで推移している。販売価格はメーカーが値上げした分の価格転嫁がよきょう品は既に完遂しているが、高炉品は道半ばの状態である。</p>
<p>愛知地区(早川常任理事)</p>	<p>建築向けは相変わらず好調。自動車は好調。板関係は不足しているという企業と余っているという企業がある。条鋼関係は前月比販売減だが、日割りではほぼ横這いである。一般形鋼の販売は落ちている。コラムの販売は増加、在庫は相変わらず不足している。大型物件の山積みは高く推移している。中小物件はあるもののコラム、ボルトの材料不足により材料確保できない物件もあり慎重になっている。2~3ヶ月後の物件に関しては受け先が少なく、4月、5月に空きが出てくるのではないかと思われる。鋼板類は前月比減だが日割りでは増えているが、前年同月比減であった。在庫は</p>

	<p>増えている。自動車生産は増えており、前年水準を上回る勢いである。3月までは堅調に推移すると思われる。自動車関連が良くなると品不足などの恐れが出てくる。価格問題がどのように進展していくのか。厚板は建築関連が好調だが、人手不足や材料の入荷遅れ、穴明け、開先などの二次加工もあり、なかなか段取りが捗らない。リフトは好調。建産機は仕事が多く出ているところもあるが斑模様で昨年10月をピークに仕事量は落ちてきており、細かい仕事ばかりである。鋼管の12月販売は落ちたが四半期でみると増えている。店売りは荷動き変わらず、高炉品、溶協品ともに荷動きが悪い。中径角も荷動きが悪い。白ガス管125A以上の他地区から問い合わせあるが物が無い。戸建て住宅が悪い。ファブは総じてよくない。シームレス鋼管は値上げの転嫁を進めている。建産機の仕事はまだある。自動車向けは高水準である。</p>
<p>東北地区（鎌田常任理事）</p>	<p>東北は2020年に復興庁が解散する。土木、丸棒が減少している。土木、（鋼矢板）シートパイル関係の需要は2014年度200万トンあったのが、2018年度は90万トンで半分以下になった。2020年度には40万トン、更に半分になるという状況である。公共土木が多いが現状苦しい状況になる。人手不足もあり、建築関連も減少傾向にある。2016年ピーク時60万トンの鉄骨需要があったものが、今年度40万トンを切るころまできている。来年度はもっと落ちるのではないか。全国に約530万トン鉄骨需要があるとすると東北の割合は7%位である。東北地区に物件が出てくると関東物件もファブに入ってくる。東北の自動車関連はトヨタの小型ハイブリット車で生産が落ちることはない。土木、丸棒が落ち始め、鉄骨、自動車が横這いか若干増である。</p>
<p>新潟地区（澁井常任理事）</p>	<p>業況アンケート結果の収益状況では新潟地区において昨年9月以降赤字企業がなかったが12月は2社赤字あった。しかし、新潟地区は季節的要因があり、12月～2月まで例年良くない。今回、赤字企業が出たが、状況はそれほど悪くない。材料の入手難。特にコラム、加工も半年位必要である。高炉の厚板は納期がかかっているため仕事をとれない。人手不足の問題もある。</p>